

吉田厚生センターの用地の本調査はいつ？

南部生協会館拡充の来年度概算要求は？

大学当局との継続交渉を

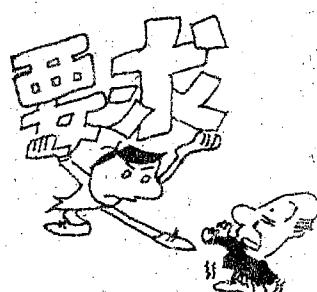
実現させよう！

現在、学内の厚生施設拡充は、ここ数年の運動を受けて、着実に前進をしてきました。吉田食堂の建て替えを始めとする吉田厚生センターの実現は、用地も決まり、昨年、2月にはテストピット（遺跡調査のための試掘）が行われ、残すは用地問題のみという段階になりました。また、最近とみに不満の声が高まり、運動化してきた南部生協会館拡充の問題も大学当局は改善の必要性を認めています。

このような状況の中で昨年の春も署名、集会等の運動が大学当局に対して行われ、組合員の声が大学中に響きわたりました。この後、10月4日に大学と交渉を持たれ、大学側の施設拡充に対する姿勢を厳しく問いつめました。

10.4 交渉の評価と課題

この交渉の最大の焦点は、吉田の用地問題でした。すなわちテストピットの結果、建設を妨げるような遺跡が埋まっている可能性の有無を大学当局に問いつめたわけです。その結果、旧吉田神社の遺跡が埋蔵している可能性がある、それを確かめるために本調査を行う必要性があるという



ことが判明しました。そして、大学当局は本調査の56年実現のために最大限努力するという確認を行いました。今後は、一刻も早く本調査が実現するようなツメを大学当局に対して行う必要があります。

また、南部生協会館拡充に対して、大学当局がどのような努力を行っているのかを明らかにすること

も重要なポイントでした。しかし、ここで明らかになつたのは、この問題に関しては予算獲得のための概算要求は行っていないという点だけです。生協としては吉田問題が長期化しそうな現在、緊急課題である南部の問題を吉田の解決まで放置しておくわけにはいかず、56年度概算要求を主張しています。そこで、大学側がこの問題に関する基本姿勢を今年度中に明らかにする必要が出てきたわけです。

その他、西部のグリル「エスポワール」の改修については、生協の出す具体案にもとづいて検討を行うと確認をしました。

このように明らかになった点があった反面、継続課題も数々残されました。

継続交渉を持つ必要性

特に南部の問題は、来年度概算要求の意志を確かめるには、今年度中に交渉を持たねばならないわけです。同時に、概算要求を来年度に行わせるように呼びかけるのもこの時期をおいてほかにありません。

また、吉田の本調査がどこまで具体化されているのかを確かめるにもいい機会といえます。

西部のグリル改修も今回交渉が持たれれば、かなり具体的な話合いがされるものと予想されます。

以上の点で、この時期に交渉が持たれるかどうかは、今後の施設運動に大きく影響してくると思われます。交渉実現を求める声を大きくまきおこていきましょう。

京大生協